



ABEST21 e-News

No.107, March 2020

ABEST21 International

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW,
a 21st century organization

TEL. +81-3-3498-6220

FAX. +81-3-3498-6221

Editor: ITOH Fumio



"The silence this spring says it all" by Roger Cohen

"This is the silent spring. The planet has gone quiet, so quiet you can almost hear it whirling around the sun, feel its smallness, picture for once the loneliness and fleetingness of being alive. . . . From animal to human the virus jumps, as if to demonstrate the indivisibility of the life and death on a small planet. The technology perfected for the rich to globalize their advantages has also created the perfect mechanism for globalizing the panic that sends portfolios into free fall."

(March 30, 2020, The New York Times)

"I wish you the best of health, and hope everything will be back to normal soon." ITOH Fumio

March

- ・ 03rd : 税理士の会計報告
- ・ 04th : 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (United Nations University-IAS) を訪問
- ・ 10th : 監事による会計監査
- ・ 12th : 国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency) を訪問
- ・ 23rd : 認証評価結果の文部科学省への報告と文部科学省記者クラブでの発表

I. "Assessing Today for Tomorrow"-No.41

「自己点検・評価 (Self-Check/Self-Evaluation)」の分析について-2

教育研究環境が加速度的に変化していくグローバル化時代においては、絶えず教育課程の改善に努めていかないと教育研究活動の質の陳腐化が現れてくる。時代の要請に応えたカリキュラムの提供ができず、社会のニーズに応えた人材育成がなされてこない。毎年同様の周期的な活動を展開している大学では、一度構築されたシステムを変えることに抵抗を感じ、変化を拒む体質が内在しているのかもしれない。例えば、教員が毎年同じシラバスで同じ学期の同じ曜日の同じ時限に同一授業をしている場合には、変化はその教員の生活リズムを崩すために変化に抵抗してくるかもしれない。しかし、グローバル化時代に対応した大学教育研究環境の整備をしていかなければならない大学においては、変化は教育研究環境の改善の「機会(Opportunity)」であり、大学自らの「そうありたい大学」から「そうあるべき大学」に転換させていく機会でもあるかもしれない。それを実現していく鍵が大学の行う「自己点検・評価」の分析にあるのかもしれない。

「自己点検・評価」は、環境社会においてあらゆる組織の存続にとって不可欠な分析である。この「自己点検・評価」の分析は環境の変化に対応していく「改善」の課題を見出す機会となるからである。「自己点検・評価」の分析が、組織的に体系的にそして定期的に行われるのであるならば、「そうあるべき大学」に接近できるのかもしれない。そのためには「自己点検・評価」の分析を的確に行っていかなければならない。

その「自己点検・評価」の分析の鍵の第一は、認証評価基準を正しく理解することである。評価基準に従って「自己点検・評価」を行うのであるから、評価基準が求めている目的を正確に理解しなければならない。認証評価基準の意味が正確に理解されて分析されないと、無内容の無味乾燥な作文となってしまう。

第二は、認証評価基準で使われている専門用語を正しく理解することである。その用語が正しく理解されないと全く異なった分析がされてくる。異なったデータでは現状の把握は不可能である。

第三は、「事実」に基づいた「自己点検」の分析をすることである。具体的な「事実」に基づいて分析することにより改善すべき問題が明確になってくる。「事実」のない「自己点検」は内容のない表層的な抽象的な分析となってくる。

第四は、「事実」を立証するデータを付すことである。示されたデータにより「現状」の把握が可能となり、「事実」を客観的に理解することができる。

以上の基準で分析された「自己点検」は、“何が改善課題であるのか”の「自己評価」を可能にしていく。「自己点検」の分析は現状が認証評価基準を満たしているかどうかの量的な判断だけではなく、未来に存続していくために必要な“改善すべき課題は何か”を見つけ出す場としても考えていかなければならない。「自己点検」の分析ができないところに「自己評価」はないのである。

一般的に多く見られる傾向は、「自己評価」のための「自己点検」をしていくことである。例えば、認証評価の認証を得ることを目的とした大学の「自己評価」は、認証評価基準に適合した割合を増やすために“基準に適合し問題はない。”と評価をしていく。従って、その「自己点検」は内容のない抽象的な分析に終始している。「自己点検・評価」の目的は“明日の大学の創造”にあり、「認証評価」を得るためにのみ行われるものではない。認証評価は「自己点検・評価」の「結果」であって、認証評価を「目的」としてのみ行われるべきものではないと考える。

大学が環境変化の社会において、大学の未来の「あるべき姿」を追い求めて現状を改善すべき課題を求めて「自己点検」をしていくと、「自己点検」は「事実」に基づいた具体的な分析になっていく。そして、その課題を改善していく実行可能な対策が明確に示されていくと大学の教育研究活動の質維持向上の保証が可能となってくる。環境の社会では「現状」がよければ「未来」もよいという保証はない。「自己点検」で分析した改善課題が解決されていく過程までも含めた評価をしていくのでなければ、教育研究活動の現状の質保証はできないと考える。教育研究活動の質保証に対するステークホルダーの期待は「未来」の対する質保証の期待であって、過去の状況に対する評価を知ることはない。それ故、認証評価では「現状に対する評価」と同時に「未来に対する評価」をも含むものでなければステークホルダーに対する質保証にはならない。ABEST21 が“Assessing Today for Tomorrow”をテーマに認証評価の審査をしているのもこのためである。

(理事長 伊藤文雄)

II. General Information

1. 2019 年度収支決算の会計監査について

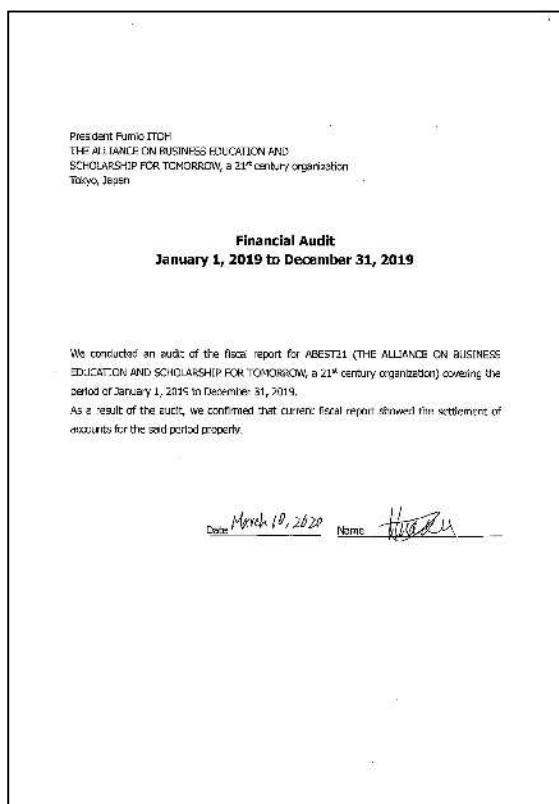
2019 年度の会計監査は COVID-19 pandemic により ABEST21 会計監事の徐驊(Xu Hua)教授（筑波大学）により、3 月 10 日、ABEST21 事務所で堀江税理士事務所の説明を受けて会計監査をしていただいた。その結果を他 2 名の会計監事、Prof. Dr. Gagaring Pagalung (Universitas Hasanuddin, Indonesia) 及び Prof. Dr. Nor'Azam Mastuki (Universiti Teknologi MARA, Malaysia) に監査結果と関係資料を送り、下記のコメントをいただいた。

・ Prof. Dr. Nor'Azam Mastuki

"Thank you for your email. I have reviewed the documents presented to me, and can conclude that the financial statement prepared and presented is reflecting the true and fair view of the current financial position of ABEST21 and in accordance with the Generally Accepted Accounting Principles. "

・ Prof. Dr. Gagaring Pagalung

"Thank so much for your information about financial audit of ABEST-21 in 2019. I agree at Balance of Accounts who prepared by HORIE Sadayuki and also agree with audited document by Auditor Prof. Dr. Hau Xu."



2. 理事会の承認事項について

ABEST21 では、新型コロナウイルスの感染拡大により、本法人理事会を web-based meeting system で開催し、下記の事項についての承認がなされました。

- 1) 2019 年度収支決算報告について
- 2) 2020 年度予算案について
- 3) 2019 年度審査の認証校について
- 4) 2021 年度開催予定の ABEST21 総会について
- 5) 2021 年度開催予定の国際シンポジウムについて
- 6) 認証校学生を対象にした ABEST21 Global Knowledge Network Field Studies の実施について

2019 年度収支決算及び 2020 年度予算案は、それぞれ承認されました。2020 年度予算案では、2019 年度より実施されている Joint Research Project "Humanizing Management Education for Sustainable Economic Development in Aisa-Pacific" に対する予算確保と新規に認証校の学部学生を対象にした "ABEST21 Global Knowledge Network Japan Field Studies" の予算が承認されました。

3. "ABEST21 Bulletine Board" の設置について

現在、2020 年度の認証評価審査結果の社会公表の作業に伴い、ABEST21 の website の内容の見直しと内容の更新作業をしています。COVID-19 pandemic の社会状況において、的確な情報発信の重要性に対処して、情報を随時発信していくために ABEST21 website に「ABEST21 Bulletin Board」を設置することにいたしました。

III. Accreditation

1. QIS, SCR 及び KAIZEN Report の提出日の延期について

当初、2020年度認証評価審査の“Quality Improvement Strategies(QIS),” “Self-Check/Self-Evaluation Report (SCR)”そして“KAIZEN Report”の提出日を2020年6月末日としてきましたが、各国の大学においてCOVID-19 pandemicの感染拡大により休校措置がとられてきました。そのために学内での「自己点検・評価」の分析作業にも支障をきたしてきたので提出日の延期要望が受審校からありました。その結果、当初予定していた提出日を1ヶ月遅らし7月末日といたしました。

2. web-based meeting system による Peer Review Committee 及び Accreditation Committee の審議の結果について

ABEST21は、2020年3月11日に予定していたPeer Review Committee (PRC)及びAccreditation Committee (AC)の開催を新型コロナウイルスの感染拡大により中止し、PRC及びACをweb-based meeting systemで行いました。審議結果について各委員会委員長より報告があり、その結果を本法人理事会に付議し2019年度認証評価の承認を得ました。2020年3月23日、文部科学省に受審大学のABEST21認証評価審査結果を報告いたしました。「適格」判定を受けた認証校は下記の学部等です。認証評価の質保証期間は2020年4月1日～2025年3月31日までの5年間です。

A: 専門職大学院（経営）分野別評価

- ・早稲田大学大学院経営管理研究科経営管理専攻（経営管理修士プログラム）
- ・早稲田大学大学院経営管理研究科経営管理専攻（ファイナンス修士プログラム）

B: プログラム評価（Program-based Accreditation System）

- ・Master of Management program, Faculty of Economics and Business, Universitas Diponegoro, Indonesia
- ・Master of Accounting Program, Faculty of Economics and Business, Universitas Diponegoro, Indonesia
- ・MBA program, Putra Business School, Malaysia
- ・Master of Business Administration Program, Arshad Ayub Graduate Business School, Universiti Teknologi MARA, Malaysia
- ・Master of Business Administration Program, College of Graduate Study in Management, Khon Kaen University, Thailand
- ・Master of Business Administration Program, Faculty of Business, Economics and Communications, Naresuan University, Thailand

C: 学部評価（Academic Unit-based Accreditation System）

- ・Faculty of Economics and Business, Universitas Airlangga, Indonesia
- ・Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya, Indonesia
- ・Faculty of Economics and Business, Universitas Lampung, Indonesia
- ・Faculty of Economics and Business, Universitas Padjadjaran, Indonesia

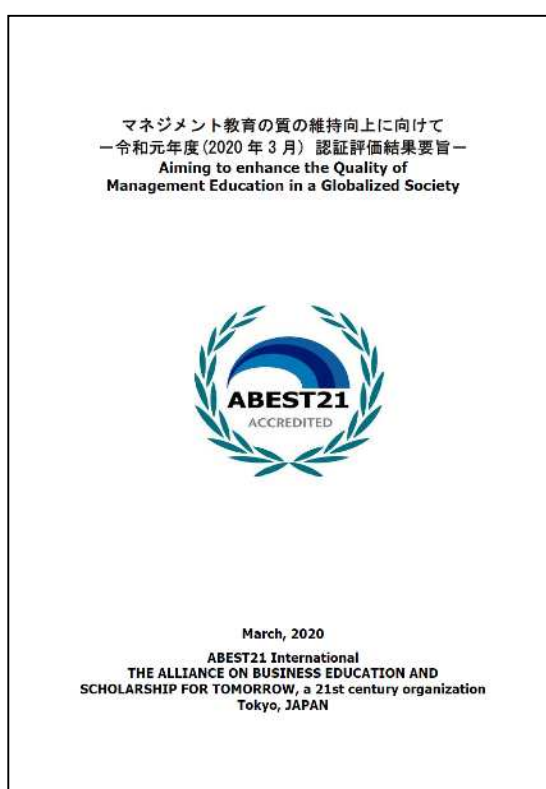
2020年3月の認証評価審査結果を含めてABEST21がこれまで認証評価の審査した件数は下表のとおりです。（）の数はAcademic Unit-based Accreditation Systemによる認証校数です。

	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	Total
JP	4	1	2	1	1	4	2	2	--	1	3	2	23
CH	--	--	--	--	--	1	--	--	--	--	1	--	2
ID	--	--	--	1	2	1	1	6	3	7(1)	2	6(4)	29(5)
MY	--	--	1	--	--	2	4	1	1	--	3	2	14
RU	--	--	--	--	--	--	--	1	--	--	--	--	1
SP	--	--	--	1	--	--	--	--	1	--	--	--	2
TH	--	--	--	--	--	--	1	1	--	--	1	2	5
Total	4	1	3	3	3	8	8	11	5	8(1)	10	12(4)	76(5)

JP: Japan, CH: China, ID: Indonesia, MY: Malaysia, RU: Russia, SP: Singapore, TH: Thailand

3. 2020年3月認証評価審査結果の文部科学省への報告について

2020年3月23日、文部科学省高等教育局高等教育企画課にABEST21が2020年3月に認証評価をした日本の早稲田大学ビジネススクールのマネジメントプログラムとファイナンスプログラム、海外のProgram-based Accreditation Systemによるインドネシア・Universitas DiponegoroのMaanagementとAccountingの2プログラム、マレーシアのPutra Business SchoolとUniversiti Teknologi MARAのMBAプログラム、タイのKhon Kaen UniversityとNaresuan UniversityのMBAプログラムについて、それぞれのプログラムの審査結果の概要と各大学のGood Practiceならびに「留意事項」等について詳細な説明をいたしました。また、Academic Unit-based Accreditation Systemでは、インドネシアのFEB-Universitas Airlangga, FEB-Universitas Burawijaya, FEB-Universitas Lampung及びFEB-Universitas Padjadjaranの学部の審査結果についても報告をいたしました。特に、Academic Unit-based Accreditation Systemについては、学術国際交流の推進に不可欠な「教育の質保証」であることを説明してきました。



4. The web-based Review System の導入について

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年度の認証評価の審査にABEST21で昨年導入したThe web-based Review Systemを導入いたします。それに伴い、下記の日程で審査を実施いたします。

1) Submission of the "ABEST21 Accreditation Application"

The School submits the "ABEST21 Accreditation Application" to the ABEST21 by the end of March, 2020.

2) Re-accreditation

As the effective period of quality assurance is 5 years, before the expiry the School has to apply to another quality assurance by ABEST21 and to continue with quality assurance as

“Re-accreditation.” In Re-accreditation, the Schools are expected to exceed the level of education quality enhancement achieved at the initial accreditation stage.

3) The ABEST21 Accreditation Seminar-I 2020

The ABEST21 Accreditation Seminar-I Malaysia 2020 was already held at Management & Science University on February 4, 2020 and the Accreditation Seminar-I Indonesia at Universitas Indonesia on February 7, 2020.

4) The ABEST21 web-based Accreditation Seminar-II 2020

The ABEST21 Accreditation Seminar-II 2020 will be held as a web-based meeting in May, 2020. The web-based Seminar-II will be conducted following the process below.

- 1) The web-based Accreditation Manual 2020 will be uploaded to the ABEST21 website.
- 2) The ABEST21 will inform the schools of URL, ID and PW in order to access the ABEST21 web-based Accreditation Manual 2020.
- 3) If the schools have any questions, they can enter these questions in the sheet that will be provided.
- 4) After that, teleconference between the school and ABEST21 will be arranged to answer the questions and clarify the unclear issues found in the Manual.

5) Adviser System

Up to present ABEST21 has provided guidance to applicant schools through Accreditation Seminar on all issues concerning analysis of Self-Check/Self-Evaluation. As there are some cases where the technical terms used in the Accreditation Standards are not understood correctly, or where analysis is not appropriately done based on the Accreditation Standards, also the terms indicated in the ABEST21 Accreditation Manual are sometimes not correctly understood, ABEST21 has established the ABEST21 Accreditation Advisor System. Under this Advisor System the applicant schools can receive guidance from the Advisor on solving their specific problems. The use of this system is not mandatory but on as-needed base. The applicant school can receive adequate advices on unclear points of analysis of Self-Check/Self-Evaluation, etc.

6) Deadline to submit the QIS, SCR and KAIZEN Report

Deadline for submission of the QIS, SCR and KAIZEN Report is by the end of July, 2020.

7) The Desk Review of the QIS

In 2019, the Dean presented on the QIS in the Peer Review Committee (PRC). Due to the COVID-19 pandemic threat, in 2020 we will conduct the Desk Review instead of the Dean’s presentation in the PRC.

8) Conducting the Peer Review Visit

We will closely monitor the developments concerning the COVID-19 pandemic. If the situation does not improve, we will have to conduct the Peer Review Visit with only local PRT members or teleconference.

9) Holding the Peer Review Committee

We are planning to hold the Peer Review Committee in November 2020 in Kuala Lumpur, Malaysia. If the situation does not improve, we will have to conduct the Peer Review Committee using the same web-based review system as this time.

IV. Global Knowledge Network

1. 2021 年度総会及び国際シンポジウムの開催について

ABEST21 は、2021 年度総会と新型コロナウイルスの感染拡大により延期となった国際シンポジウムを、2021

年3月11日に、青山学院大学総合研究所ビル国際会議場で開催することになりました。詳細については追ってお知らせいたします。

2. “ABEST21 Global Knowledge Network Japan Field Studies”について

“ABEST21 Global Knowledge Network Japan Field Studies”は、ABEST21 認証校の学部学生を対象に東京で1週間の予定でアジア太平洋地域の政治・経済・文化のグローバルな諸問題を、文化的背景を異にする多様な価値観を有する学生間の交流により、この狭隘化していく「地球」船の羅針盤を共有化してしていく機会にしたいと考えています。

3. 国連大学大学院支援のための jfScholarship for UNU 賛助会員 A の加入について

この度、ABEST21 は国際連合大学が設置している国連大学大学院サステナビリティ学研究所（修士・博士課程）で学ぶ開発途上国の留学生に対して経済的支援を行う国連大学大学院サステナビリティ学研究所奨学助成（jfScholarship for UNU）の賛助会員 A に加入いたしました。国連大学大学院サステナビリティ学研究所は「国連及び世界が直面する緊急で地球的な課題の解決」のために高度な専門家として携わる人材の育成を目的として設置された大学院です。修士課程プログラムは、自然科学、社会科学、人文科学を融合させた学際的なアプローチを通して、サステナビリティに関する課題解決に貢献するために必要な知識・スキルを身に付けた人材育成を目的としています。博士課程プログラムはサステナビリティ学の分野で重要な研究者となる人材の育成を目的としています。

